

**令和6年度 旧日本銀行新潟支店長役宅「砂丘館」
指定管理者事業計画**

1. 管理運営の基本方針

伝統的な建築物を大切に維持管理することはもちろん、『おもてなし』の心を大切に管理運営します。

2. 運営に関する業務

- ・適切な人員配置を行い、お客様視点を心掛けた業務を行います。
- ・業務研修は内容に応じて繰り返し行います。他施設との研修や交流も継続して進めます。
- ・苦情を申し立てる人の立場に立って聞く姿勢を徹底することにより、苦情の申し立てやすい環境を常に維持します。
- ・苦情やご意見には迅速かつ適切に対応します。

3. 自主事業

別紙の通り

4. 開館予定

閑散期等において、臨時休館日を下記の通り年間6日間で設定いたします。また開館時間の短縮（午後7時閉館）の日程については下記の通り71日間設定しますが、その期間中に貸館利用の申込がある場合は通常通りの午後9時までの開館とします。

臨時休館日や開館時間短縮の日程については、来館者に迷惑が及ばないように努力いたします。

◎臨時休館日：5月8日、8月14・15日、12月25～27日 全6日間

◎短縮日程：令和6年12月17日～令和7年3月20日 休館日を除く71日間

5. 人員体制

○施設職員

職 種	員数	備 考
館長	1名	学芸員／防火管理者
受付	6名	(内2名非常勤)
生活文化企画運営担当（非常勤）	1名	
自主事業担当（非常勤）	1名	

○本社職員

本社指定管理担当職員（本社勤務）	1名	
------------------	----	--

本社は、館から報告を受けるとともに、随時必要な指示と支援を行います。

6. 自己評価の手法

広く施設見学者・利用者の生の声を集めるために、アンケートや感想ノートを常備します。また自主事業時にはその都度アンケートを実施し、感想・意見を集めます。

アンケート結果をその後の管理運営に生かしていきます。

毎月、館職員・非常勤職員、新潟ビルサービス担当者を交えた運営ミーティングを実施し、施設見学者・利用者の意見や要望を検討します。導き出された改善点や新たなアイデアで見学者・利用者が関心を持てるような企画または運営方針を再構築し運営に活用します。

7. 収支予算

【収入】 (単位：千円)

科 目	金 額	主 な 内 容
指定管理料	12,646	市からの委託料
自主財源	2,423	イベント収入、企業メセナ、寄付金、喫茶収入等
合 計	15,069	

【支出】 (単位：千円)

科 目	金 額	主 な 内 容
人件費	10,174	
管理費	2,522	光熱水費、施設案内パンフ作成・発送費等
自主事業費	2,373	企画展展示材料費、イベント講師謝礼、喫茶運営費等
合 計	15,069	

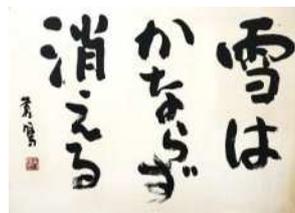
砂丘館 2024年度(令和6年度) 自主事業計画 (29事業)

自主事業は昨年度から「自主企画展」「芸術文化の催し」「生活文化の催し」「セミナー」「その他」の5つで実施してきたが、今年度からは新たに「普及事業」を追加した。

① 自主企画展／新潟のすぐれた美術家や、新潟に関わりなく、すぐれて現代的意義を持つ作家の個展やグループ展をギャラリーと館内を会場に開催する。(6事業)

横山蒼鳳さんの書いたことば展 2024年4月10日～5月6日

自分の言葉を、誰にも読める字で書くのが書だと考え、実践した新潟の書家横山蒼鳳(1934-2012)。新潟のひとを、自然を、暮らしを語った言葉の数々が、書という声に乗って昭和の家を賑やかにする。



横山蒼鳳作品

ヒカリノミチ 吉田重信展 2024年5月15日～7月7日

福島県いわき市を拠点に活動する現代アーティスト吉田重信は、長年「光」を素材とした作品を制作してきた。建築のガラスの壁、窓から差し込む外光を色光に変えたり、プリズム、光ファイバーなどを用い木々や展示室の一部を虹色に染めたり。砂丘館の内外が鮮やかな色の光で、わくわくする異空間に生まれ変わる。



吉田重信作品

映像展示2024 ① 吉原悠博 7月30日～8月12日

② mikkyoz018 8月20日～9月1日

新潟を拠点に実験的映像を制作し続ける一人と一組の美術家の新作による発表シリーズ。mikkyozは今回で13回目。吉原悠博は昨年に引き続いての発表となる。新潟でも数少ない実験映像の現在を紹介する展示には固定ファンも多い。



吉原悠博作品



mikkyoz作品

栗田宏遺作展 2024年9月26日～11月4日

砂丘館では栗田宏を現代の新潟で最も注目すべき表現者の一人として、注目し、2007年の個展以降も書家の華雪、画家の平野充、画家・版画家の梅田恭子らとの二人展などの形式で何度も紹介してきた。2022年8月に逝去した栗田の遺作を未発表のものも含めて大規模に紹介する没後初の本格的な遺作展示を開催する。



栗田宏作品

佐佐木實展 2024年11月21日～12月15日

2011年の東日本大震災直後に砂丘館では「特別展示(準企画展)」という枠で書家であり・現代美術家である佐佐木實の個展を開催した。佐佐木の制作はその後「ヒ」「イ」一文字を多様な形で描き、創るユニークなシリーズへと新たな展開をとげてきた。今回は近年の<「イ」充つ>を中心として、そのほかのシリーズへも視点を広げ、佐佐木の制作の現在を紹介する。



佐佐木實作品

湊雅博展「海」 2025年2月13日～3月23日

寡作な写真表現者であり、優れた写真展の企画者として活動を続けてきた湊雅博。2019年に刊行した写真集『FUSION:環』は自然の一角をカメラの視角で切り取りながら、きわめて凝集度の高い、また抽象性にぎりぎりまで近づいた独自の表現で注目された。その湊が46年前の1978年に刊行した写真集『海』に改めて焦点をあて、湊の写真の原点を改めて見つめる。



湊雅博「海」より

② 芸術文化の活動／蔵や居間・茶の間・座敷を会場に、新潟の音楽家、パフォーマーの公演を行う。（6事業）

- ・津軽三味線 小林組。ライブ 4月14日
- ・薫風之音ライブ 6月2日
- ・能勢山陽生・宮本尚晃ライブ 7月25日
- ・林家正雀落語口演会 7月20・21日
- ・堀川久子ダンス公演 11月15・16・17日（予定）
- ・タナカ・トシユキ&ファビオ・ボッタッツォジャズライブ 12月21日



薫風之音



林家正雀



タナカ・トシユキ&ファビオ・ボッタッツォ

③ 生活文化の活動／伝統的な住空間を生かした日本の生活文化を体験する催しを行う。（9事業）

- ・佐藤家の五月人形展示 4-5月（今年度は旧齋藤家別邸に展示）
- ・四葩のコンサート 7月7日
- ・庭園実技講習 松と高木の剪定 7月13日（協力 新潟造園建設業協会）
- ・村松栗モンブランを味わう 10月14日
- ・庭園実技講習 雪囲いと雪吊り 11月9日（協力 新潟造園建設業協会）
- ・秋HIYORI 11月10日
- ・新春神楽めぐり2019.1月上旬（旧齋藤家別邸と連携）
- ・香道入門講座 10月20日・2025年3月16日
- ・佐藤家の雛人形展示2-3月（今年度は旧齋藤家別邸に展示）



香道入門講座

④ セミナー（5事業）

- ・解説ボランティア養成講座 4月13・20・27日
- ・苔を学ぶ・苔を楽しむ 7月27日、8月3・10日
- ・新潟はどこにあったのか（中世の新潟を考える） 8月30日、9月6・13日
- ・初心者のためのふるまち新潟をどり鑑賞講座 9月7日
- ・色についてのあれこれ（仮称）10月12・19・26日、11月2日



高森いざや神楽

⑤ 普及事業／砂丘館を知ってもらい、親しんで、もらうための催し（1事業）

- ・砂丘館マルシェ 9月14.15日
砂丘館という場を多くの方に知っていただくため、砂丘館全体を会場に文化的活動を行う団体に出店してもらい、マルシェ（フリーマーケット）を開催する。

⑥ そのほか（2事業）

- ・花と絵による館内のしつらい 常時
生け花と「砂丘館セレクション（新潟市内の所蔵家から借用した絵）」で館内を飾る。
- ・見学者への解説 土日・祝休日
解説ボランティア養成講座を受講したボランティアにより、来館者に館内の解説を行う。